

2020.2.18 岩手県青少年育成県民会議 講演会

発達に特性のある子どもたちの 理解と支援

東京学芸大学
藤野 博

1

発達障害とは

- 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの（発達障害者支援法より）

- 限局性学習症(SLD) = 学習障害(LD)
- 注意欠如多動症(ADHD)
- 自閉スペクトラム症(ASD)

2

通常の学級で学習や行動の困難を抱えている児童生徒

Category	Percentage
学習面の困難	4.5%
行動面の困難	3.6%
両方の困難	1.6%
合計	6.5%

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(文部科学省, 2012)より

3

<読む・書く>ことの問題

- 普段あまり使わない語などを読み間違える
- 音読が遅い
- 文章の要点を正しく読みとることが難しい
- 読みにくい字を書く
- 漢字の細かい部分を書き間違える

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(文部科学省, 2012)より

4

<読む・書く>ことのLD

- 近年では「ディスレクシア(Dyslexia)」という名称が使われることが多い。「発達性読み書き障害」と訳されている。
- 日本語圏では仮名よりも漢字により深刻な問題を生じやすい
- 英語の学習が始まってから問題が顕在化することもある

5

ADHD(注意欠如多動症)の特徴

> 不注意

【例】

- ✓ 学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする
- ✓ 指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない

> 多動性

【例】

- ✓ 授業中や座っているべき時に席を離れてしまう
- ✓ じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する

> 衝動性

【例】

- ✓ 質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう
- ✓ 順番を待つのが難しい

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(文部科学省, 2012)より

6

ADHDにおける学習面の問題

- 周囲の環境からの余分な刺激の影響を受けやすく、課題にのみ注意を向け集中して取り組むことが難しい
- 例えば文章全体でなくいくつかの単語のみで理解したつもりになってしまうなど、示された情報の一部だけから判断してしまうことによるケアレスミスが多い

7

ADHDの子どもの情動面の問題

- その場面で望ましい行動、不適切な行動などについて頭では理解できているが、行動を抑えることができない。
- 衝動を抑制できずに行った結果、大人から叱られたり罰せられたりする
- 他児からもマイナス評価を受ける



- ✓ 自己肯定感が低下し、ネガティブな自己イメージが形成される
- ✓ クラスの中での居場所がなくなる

8

自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder: ASD)

【基本的な特徴】

- 社会性とコミュニケーションの障害
- 反復的で常同的な行動
- 他に、感覚の過敏性、運動の不器用さ、などを伴うこともある

【以前の診断名】 広汎性発達障害

- 自閉性障害 (Autism)
- アスペルガー症候群 (Asperger Syndrome)
- 特定不能の広汎性発達障害 (PDD-NOS)

9

ASD の特徴

➢ 対人関係・社会性の問題

【例】

- ✓ 友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない
- ✓ 球技やゲームをする時、仲間と協力してプレーすることが考えられない

➢ コミュニケーション・言葉の問題

【例】

- ✓ 含みのある言葉の本当の意味が分からず、表面的に言葉通りに受けとめてしまうことがある
- ✓ 会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある

➢ 狭い興味・関心や強いこだわり

【例】

- ✓ 他の子どもは興味がないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている
- ✓ ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることもある

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(文部科学省, 2012)より

10

ASDのコミュニケーション障害

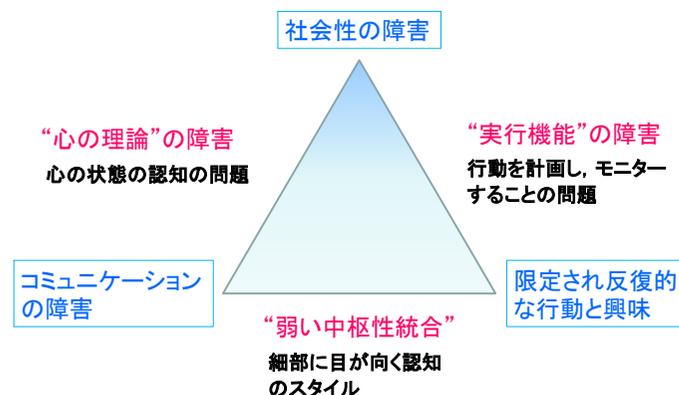
- 相手の話の「言外の意味」を理解することが容易ではない
- 冗談がわからないことがよくある
- 他の人と雑談のような社交的な会話を楽しむことができない
- 会話をどのように進めたらいいのかわからなくなってしまうことがよくある

若林「自閉症スペクトラム指数(AQ)日本語版」より

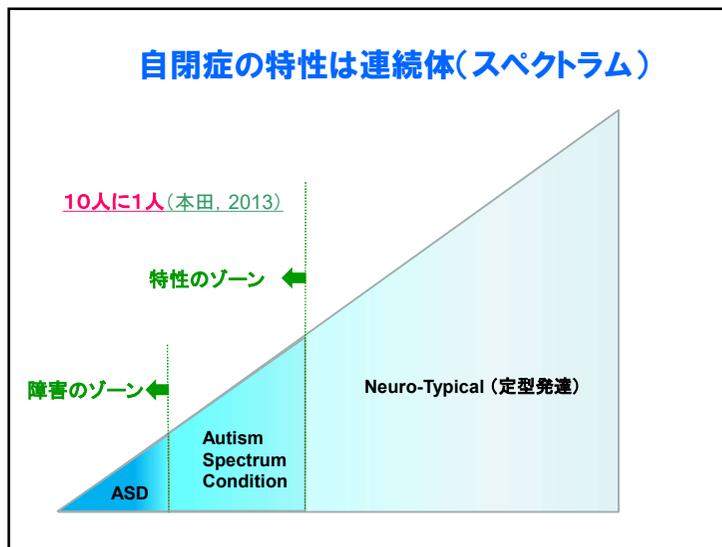
11

ASDの認知機能の問題

(Happé, 2013)



12



13

発達障害についての今日の考え方

- “単なる遅れ”ではない
- “正常”か“異常”か、で割り切れる問題ではない
- 生得的な要因に由来する脳機能の非定型的な発達過程と環境要因との相互作用によって形成される(笹沼,2007)
 - 「**脳の多様性 (Neurodiversity)**」という視点 (Singer, 1999)

14

神経多様性(Neurodiversity)

- ASD当事者家族の社会学者 Singer(1999)が提唱した
- ASDを「病」でなく、個人のアイデンティティを構成するものとして考える(Fenton & Krahn, 2007)
- ASDの特性は認知スタイルとして見ることもできる(Happé, 1999)

15

発達障害 と 二次障害

失敗経験の繰り返し

↓

自尊感情、自己効力感の低下

↓

学校生活、社会生活への適応を妨げる様々な問題

➢ 二次障害を起こさないための予防的な対応が重要

16

発達障害のある子どもへの支援のあり方

- できないことばかりに目を向けない
 - 強さや良さなど、子どもの特性を前向きに評価し、支援につなげていく
- [プラス思考で考えることが大切](#)

17

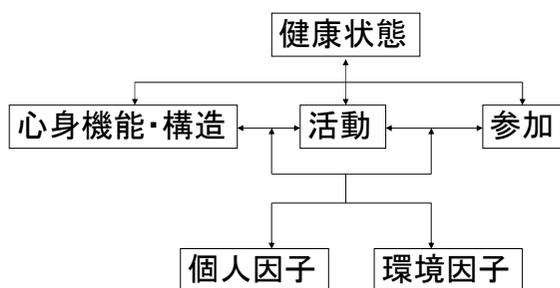
ASDの人への支援のキーワード

SPELL (英国自閉症協会)

- 構造化: [Structure](#)
- 肯定的に: [Positive](#)
- 共感的に: [Empathy](#)
- 穏やかに: [Low arousal](#)
- つながりを: [Links](#)

18

ICF (国際生活機能分類)



障害は個人の問題でなく、個人と環境との間に立ちはだかるバリア

19

障害者の権利に関する条約

- 全ての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的とする
- 国際人権法に基づく人権条約
➢ 2006年に第61回国連総会で採決
➢ 日本は、2013年に批准
- ◆ 「障害は個人にではなく社会にある」
 - ◆ “Nothing about us without us!”

20

障害者差別解消法 (障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)

- 2016年4月より施行
- 第一章 第五条 行政機関等及び事業者は、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、自ら設置する施設の構造の改善及び設備の整備、関係職員に対する研修その他の必要な環境の整備に努めなければならない。

21

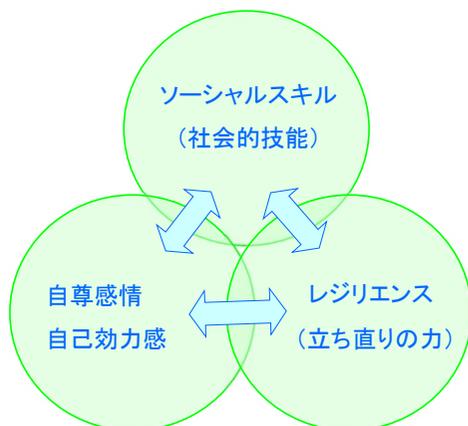
社会参加できている人の特徴

(本田・日戸, 2013)

- 基本的な生活スキルや対人スキルをある程度は身につけている
- 学齢期の段階で何らかの支援機関を利用していた
- 家族から「こうするべきである」という価値の押し付けをされてこなかった
- 信頼できる相談相手を持ち続けてきた
- 少し変わっているけれど、にくめない性格に育てよう!

22

社会性の育ちを支えるもの



23

ソーシャルスキル

(Gresham, 1986)

- 仲間から受け入れられる行動
- 人との関わりの中で好ましい結果をもたらす可能性を高める行動
- 協調性
- 共感性
- 主張性
- 自己統制
- 責任性

24

ソーシャルスキル獲得のメリット

- 社会的場面での成功経験が増える
 - 自尊心・自己効力感の向上につながる
- ソーシャルスキルがあれば、他者からの援助を引き出すことができ、援助を受けとめることもできる(相川, 2009)
- 学校での様々なストレス反応の軽減に役立つ(嶋田ら, 1996)

25

幼児・小学生の基本スキル

(本田・日戸, 2016)

- 人に希望を伝える
- 生活リズムを整える
- 人に手伝ってもらう
- 人といっしょに楽しむ
- 人といっしょに喜ぶ

26

思春期より前の支援の原則

(本田, 2013)

- 保護的な環境を提供すること
 - 絶対に失敗しないようにお膳立てすることが重要
- 得意なことを十分に保障すること
 - 子どもが得意なこと、ほかの人と違うことこそほめる
- 苦手なことの特訓を極力させないこと
 - 思春期より前の苦手克服の特訓は二次障害のリスクを高める
- 大人に相談してうまくいったという経験を持たせること
 - あの人に話したら、事態が好転したという経験が重要

27

思春期の基本スキル

(本田・日戸, 2016)

- 人と意見を出し合う
- 相談を習慣にする
- 体調を管理する
- お金の使い方を学ぶ
- 進路を考える

28

思春期以降の支援

(本田,2013)

- 支援つき試行錯誤
 - ▶ 思春期以降の失敗は、失敗の後に立ち直ってうまく解決すると自信になる

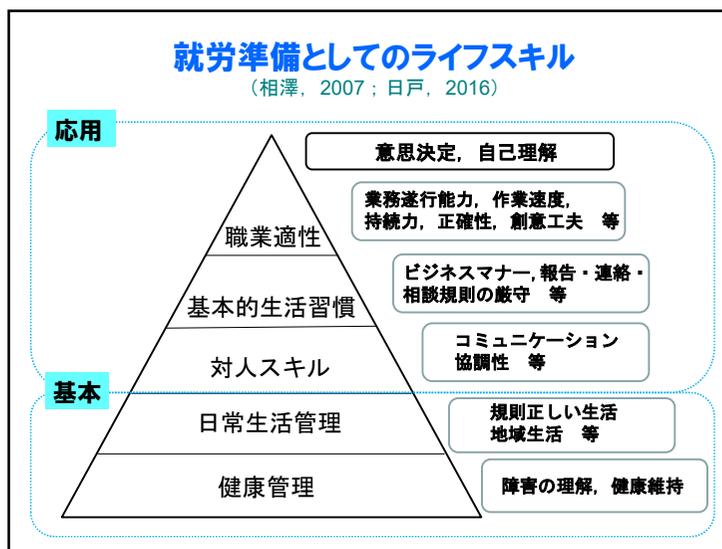
29

ライフスキル

(WHO, 1994)

- 日常の様々な問題や要求に対し、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力
- WHOは各国の学校の教育課程にライフスキルの修得を導入することを提案している

30



31

就労に関連するソフトスキル

(梅永, 2015)

1. 身だしなみ
2. 時間の管理
3. 余暇の使い方
4. 日常的な家事労働
5. 対人関係 (チームワーク) コミュニケーション
6. 金銭管理

32

自分の取説を作ろう

- 得意なこと
- 苦手なこと
 - 時間をかければできること
 - 手伝ってもらうとできること
 - 何を？
 - だれに？
 - 道具があればできること
 - 苦手だけど、できるようになりたいこと(応援してほしいこと)
 - 絶対やりたくないこと(しなくても済むよう配慮してほしいこと)
- 気持ちの立て直し方
- 元気の回復法

33

自尊感情(セルフエスティーム)

- 自己に対する評価感情で、自分自身を基本的に価値あるものとする感覚(遠藤, 1999)
- 傷つきやすさの仮説(Nadler, 1998)
 - ➡ 自尊感情の低い人は援助を求めることで、さらに傷つくことを恐れて援助を求めない

34

自己効力感

(Bandura, 1977)

- ある結果を生じるために必要な行動をうまく遂行できるという確信
- 成功経験や認めてほしい人からの励まし、応援、賞賛などによって高まる

35

仮想的有能感

自己の直接的なポジティブ経験に関係なく、他者の能力を批判的に批評・軽視する傾向に付随して習慣的に生じる有能さの感覚
(速水・木野・高木, 2004)

36

自尊感情

主に**直接的なポジティブ経験**により形成される

対極

仮想的有能感

実際の能力に関係なく他者を軽視することで感じる
偽物の有能感

37

レジリエンス

- 困難な環境にもかかわらずうまく適応する過程・能力・結果 (Masten, Best & Germezy, 1990)
- 環境のストレス、状況の不安定さ、葛藤といった状況下で 適応あるいは平衡を保つための能力 (Block & Block, 1994)
- 困難状況において苦痛を感じながらも、その後の適応的な回復を導く心理的な特性および能力。
単に強さや耐性のみを指す概念ではない (小塩ら, 2002)

38

レジリエンスを構成する因子

(小塩, 2002)

- 新たな出来事に興味や関心を持ち、さまざまなことにチャレンジしていこうとする **新奇性追求**
- 自分の感情をうまく制御することができる **感情調整**
- 明るくポジティブな未来を予想し、その将来に向けて努力しようとする **肯定的な未来志向**

39

レジリエンスの要因

(平野, 2010; 齋藤・岡安, 2011; 本郷, 2015)

レベル	要因	具体例
個人	資質的	自尊感情
		統制力
		楽観性
	獲得的	感情のコントロール
環境	環境的	ソーシャルスキル
		ストレス耐性
		ソーシャルサポート
		良い学校体験 安定した家庭環境

40

レジリエンスの獲得に関係する要因

- 自尊感情と関連している(小塩, 2002)
- 家族コミュニケーションが高いほどレジリエンスは高い(Garmezy,1983;Baldwin et al.,1990;Wyman et al.,1999)
- レジリエンスの状態にある子どもには何人かの親しい友人がいる(Werner, 1993)

41

ソーシャルサポート

ケアされ愛されている、評価され価値が認められている、相互義務のネットワークに属している、という個人の信念 (Cobb, 1976)

ソーシャルサポートのタイプ (House, 1981)

- **情緒的サポート**
 - 共感する、愛情を注ぐ、信じる、など
- **道具的サポート**
 - 直接的に手助けする
- **情動的サポート**
 - 有用な情報や知識を提供する
- **評価的サポート**
 - その人に見合った評価をする

42

レジリエンスを高めるポイント

- 自尊感情
- 感情のコントロール
- ソーシャルサポート

43

自己効力感を育てるには

- **成功経験**
 - サポートを受けて失敗から立ち直る経験も含め
- **他者からの承認**
 - 他児と比較し能力をほめるのではなく努力をほめる
- **逆効果になる(良くない)ほめ方**(榎本, 2015)
 - 易しい課題ができたときにほめる
 - 明確な根拠なしにほめる
 - 過度に一般化しすぎたほめ方をする
 - コントロールするようなほめ方をする

44

ストレスとソーシャルサポート

- ソーシャルサポートはストレスの否定的効果を緩和し、ストレス反応を軽減する(相川, 2009)
- 知覚されたサポートは、出来事が自分の対処能力を超えるストレスフルなものであるかどうかの判断に影響する(福岡, 2004)
- ソーシャルサポートの期待を高く知覚しているとストレス反応が小さくなる(武田, 2006)

45

援助要請

- 友達や他の人に相談する
- どうしたら良いか人の意見を聞く
- 自分のおかれた状況について、他の人に話を聞いてもらう
- 問題の解決に力を貸してくれるように人に頼む
- 誰かに一緒にいてもらう
- 人に自分の気持ちをわかってもらう

46

当事者から見た専門家による支援の問題

(綾屋, 2011)

- 専門家は、マイノリティの人々を社会に適應させるべく、さまざまな療法・訓練・教育・薬などによって考え方や行動を変えようとする
- しかし、適應させようとする治療の論理は、マイノリティに対して不断の努力を強いる同化的圧力となりがちである
- しかも、マイノリティは、この同化的圧力を正当なものとして内面化し、自らにムチ打ち、過剰適應しやすい

綾屋紗月(2011)アスペルガー症候群当事者の自己感と当事者研究の可能性.
臨床発達心理実践研究, 6, 55-62.

47

発達障害児者のコミュニケーション支援 —トレーニングでないアプローチ—

- QOL(生活の質)の充実を中心に
- 余暇活動を通して
- 趣味のグループでの仲間との活動

48

自閉的共感性仮説

(Komeda et al., 2015)

- ASD的な行動をする人物が登場する文を読んでいるとき、ASD者は共感に関わる脳の部位が活性化していた
- ASD者はASD者に共感する

49

ASDの人の特別な興味

- ① 自閉症(とくに女性)
- ② コンピュータ, ゲーム(とくに男性)
- ③ 音楽, バンド
- ④ 自然, ガーデニング
- ⑤ 芸術, 文化
- ⑥ 科学
- ⑦ 宗教, 瞑想
- ⑧ 映画, TVショー, 有名人
- ⑨ 人体, 心理学
- ⑩ 政治, 歴史

- オランダでの研究
- 対象は687名の成人
- 平均年齢は42.4歳

* 多い順

Grove et al. (2018) Special interests and subjective wellbeing in autistic adults. *Autism Research*, 11, 766-775.

50

ASDの人の特別な興味と幸せ感

- 特別な興味をもつ人と持たない人の幸せ感(Subjective Wellbeing)に有意な差はない
- パーソナルな生活の価値観と目標, エンゲージメント(打ち込めるもの)とフロー(没入)は, 幸せ感につながる

Grove et al. (2018) Special interests and subjective wellbeing in autistic adults. *Autism Research*, 11, 766-775.

51

エビデンスに基づく実践

(Wong et al., 2014)

支援目標	研究数
社会性	165
コミュニケーション	182
問題行動	158
共同注意	39
遊び	77
認知	15
就学レディネス・スキル	67
学力	58
運動	18
適応	55
職業	12
精神的健康(ウェルビーイング)	1 ← 少ない!

Wong et al. (2014) Evidence-based practice for children, youth, and young adults with autism spectrum disorder. <https://cidd.unc.edu/Registry/Research/Docs/31.pdf>

52

趣味トーク活動

- 日戸ら(2010)の方法に基づいて趣味トーク活動を行った
- テーブルを囲んで着席できるように設定した
- 子どもには自分の関心のある具体物を見せたいものとして持参させるように伝えた
- 趣味の時間は交代で自分の趣味について語る時間であることを説明した

53

コミュニケーションを促進する余暇活動の例 テーブルトーク・ロールプレイング・ゲーム(TRPG)

(加藤, 2013)

- テーブルを囲み、紙や鉛筆・サイコロなどを使い、参加者同士の会話のやり取りで、物語を進めて行くことを楽しむゲーム
- 1人がゲームの進行役&審判役である「ゲームマスター(GM)」を担当する。GMは事前にシナリオ(物語の設定やあらすじ)を用意する。他の参加者は、ルールに従い、キャラクター(物語の登場人物)を作成し、演じることで物語に参加する。

54

TRPG参加者の声

(加藤・藤野, 2016)

- TRPGは笑いの絶えない活動だった
- TRPGは楽しかった。やっているときは笑いも多かった
- TRPGの後で「こういうのが良かったよね」という話題で雑談ができる。それで自然と話せるようになった
- TRPGを体験してから、前よりも会話することが楽しくなった
- ゲーム中の行動が失敗したことも、それはそれで楽しかった
- ゲーム中、他の参加者の行動にイライラすることもあったが、慣れてくると、「ま、いいか」と思うようになった

55

- **場面がうまくデザインされていれば、ASDの人も驚くほど社交的になる**
- **「社会性」や「コミュニケーション力」は人と関わる楽しさや満足感の後についてくる**

56

みつけばルーム

- NPO法人東京都自閉症協会が世田谷区で運営
- 発達凸凹の若者(15歳～25歳くらい)が多彩なワークショップを通じて、世の中を、ゆる～くサバイバルするのに必要なスキルをみつける場所
- 発達に特性をもつ当事者がスタッフとなってピアサポートが行われている

「世田谷区受託事業みつけばルーム事業報告書」より

57

似たタイプの人同士の小グループの意義

- 無理なく楽しく付き合える仲間がいる
 - ソーシャルサポートが得られる
- 仲間との間で成功経験が積める
 - 自尊感情が高められる
- 安心して失敗できる環境がある
 - レジリエンスが高められる

58

Autism-Specific QOL

(McConachie et al., 2018)

- 重要な決定をするときに十分なサポートは得られますか？
- 友人や親しい人といるときに「あなた自身」になれますか？
- 問題に対処するための十分なサポートが、生活の中で必要なときに得られますか？
- 現在の友人関係に満足していますか？
- ヘルス・サービスへのアクセスにバリアを感じますか？
- やりたいことを妨げる感覚の問題が環境の中にありますか？
- 公的状況でやらねばならないことへのバリアはありますか？
- あなたのアイデンティティとして「自閉症」であることはOKですか？

McConachie et al. (2018) Enhancing the validity of a quality of life measure for autistic people. *JADD*, 48, 1596-1611.

59

支援者の「つなぐ」役割

- 地域に居場所があることが重要
- 共感できる他者との交流がポイント
- 続くためには適度な「ゆるさ」も必要

ネットワークの構築と維持が支援者の役割

60